

73 期リレーエッセイ

私が『弁護士として』取り組むべき 社会問題・人権課題

会員 沼田 英久



1 はじめに

私が弁護士として仕事を始めて、早くも1年が経とうとしている（この原稿が掲載されるのがちょうど1年という具合である）。

これまでの約1年を振り返って感じたこと、考えたことを書いてみたいと思う。

2 弁護士になって抱く 「漠然とした不安」

私が入所した事務所は、労働者側の労働事件を多く扱う事務所である。私自身、労働者側の労働事件に取り組む、少しでも働く人たちの力になって、楽しく働けるような社会にしたいと思い、今の事務所を志望した。この気持ちは未だに変わっていないし、これからも変わらないと思う。

しかし、仕事を始めて、同じ事務所の他の弁護士たちと一緒に仕事をして最近考えるのは、「果たしてそれだけでよいのだろうか？」という漠然とした不安である。

というのも、事務所の他の弁護士たちは事務所に来た多くの労働事件を処理しながら、それ以外の社会問題、人権課題に相当な熱意とエネルギーをもって取り組んでいるからである。そのような取り組みをしている弁護士たちの姿を近くで見ながら、それと比べて一つ一つの個別の事件の処理ですらおぼつかない自分自身に漠然とした不安を抱いているのである。

勿論、弁護士になってたった1年程度の人間が、どんな事件でもうまく捌けるということはなく、時には失敗しながら少しずつうまく事件を捌く方法を習得してはいくものだと司法修習などの機会に聞いた記憶

がある。しかし、数年後、ある程度事件の処理がうまくなってきたとして、果たして諸先輩方のような熱意とエネルギーをもって様々な社会問題・人権課題に取り組むことができるのだろうか、そのような能力が自分にはあるのだろうか？1年間という短い期間では、これから数年、数十年先のことはまだ見当もつかないのである。

3 これからの抱負

このようなことを大っぴらに言ってしまうと、「そんな弱気でどうする！もっと強いパッションを持って！」とお叱りを受けるかもしれない。

私が漠然とした不安を抱いていることは上述のとおりであるが、とはいっても、まだ弁護士になって1年ほどしか経っていないので、まだそこまで深刻に悩むようなことでもないのかもしれない。それこそ、弁護士としての人生は30年、40年とまだまだ続くものなので、その中で、「これこそは自分の人生をかけて取り組まなければならない！」と思えるような社会問題・人権課題を発見できればよいのではないかと、思うのである（もちろん、それが自分にとっては「労働問題」なのかもしれない）。

これから先、弁護士としてのスキルを磨きつつ、自分が人生をかけて取り組まなければならないと思える社会問題・人権課題に早く出会えるように、常に社会の動きや出来事にアンテナを張り巡らせておくことが新人弁護士である今の私にできるベストなことなのではないか。業務に忙殺されてしまうだけの日々を送るのではなく、弁護士として社会問題・人権課題により積極的に取り組めるようになりたいと私は思う。